

○計画期間：令和3年4月～令和8年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和6年度終了時点（令和7年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、令和3年4月以降、認定基本計画に基づき「時代（とき）・エリア・人をつなぐ」をテーマに、第1期計画の検証を踏まえ、「快適・安全で市民や観光客が集まる魅力あるまちづくり」、「人が集い、回遊したくなる魅力を生む仕組みづくり」、「まちづくりを支える人材の育成及び商業活動の活性化による賑わいづくり」の3つの基本方針のもと、75事業を推進することで中心市街地の活性化に取り組んでいる。結果として14事業が完了し、59事業が着手・実施中、2事業が未実施となった。

令和5年8月に多機能型図書館と子育て支援機能を併せ持つ、遊びと学びの交流施設「くるんと」（以下、「くるんと」）がオープンし、子育て世代はもちろん、幅広い世代の市民生活の向上が図られた。また、県内外を問わず多くの方にご利用いただき、令和6年度の来館者は約29万人となった。施設の外では遊具や噴水で遊ぶ子ども達の姿が見られるようになり、賑わいの創出に繋がっている。

一方で、目標指標の1つである「各施設利用者数」中、「くるんと」以外の施設については、水陸両用バスの運行中止による市内観光客の減少等の影響を受け、利用者が減少した。また、「歩行者・自転車等通行量」における平日の通行量については、市民駐車場前以外の地点で昨年度に比べ減少した。こちらは上記に記載した要因による観光客の減少や、コロナ禍後の団体旅行客の減少、人口減少等の影響によるもとと考えられる。

市の現状としてはマイナスとなっている部分もあるところだが、令和6年度においては「くるんと」を核とした公共空間等の活用、商店街やまちづくり団体等を巻き込んだ官民連携でのイベントを実施し、街中回遊の活性化を図った。本イベントは、市で令和5年度から実施している「中心市街地にぎわい創出事業（以下、「にぎわい創出事業」）」の中の取組であり、「ミンナガフェス」と題し、例年市内で開催しているイベントと連携させた内容の施策を実施したものである。具体的には、8月10日に「長井おどり大パレード」の開催と併せて「くるんと」1周年記念イベントや夏のにぎわい創出のためのステージコンテンツ等を、10月12日に商店街主催イベント「もとまち青空フェスティバル」と併せて日本や長井の伝統・文化体験ができるような参加型イベントを、2月1日に「ながい雪灯り回廊まつり」と併せて中心市街地の回遊を促すコンテンツの実施を行った。本イベントの開催を通して、子育て世代や住民同士等が地域の文化との関わりを持つきっかけやふれあいの「場」を創出した。その他、継続的なにぎわい創出のための仕組みづくりに対する取組として、まちづくり会社との連携による「ながい市空き店舗バンク」の組成や市内飲食店と協力し「くるんと子育て応援クーポン」の発行を行った。「ながい市空き店舗バンク」は、市内中心市街地の空き店舗の解消のために、商店街の事業者で構成したまちづくり会社である「俺たちの株式会社楽街」を中心として、これまで一元管理がなされていなかった長井市内の空き店舗情報を集約し、より広範囲に最新の市内の空き店舗情報を共有する機能、加えて空き店舗の賃貸または売却を希望する所有者と空き店舗の利用を希望する方のマッチングをサポートするサービスである。今後は本サービスの運営と併せて、市、長井商工会議所と連携した新規創業・新規出店を検討する方のサポート体制を構築し、さらなる中心市

街地のにぎわい創出につなげるべく取組を推進する。「くるんと子育て応援クーポン」は、「くるんと」利用者のデータやアンケートを元に、主に利用者の7割を占める市外からの来訪者に市内の飲食店情報をPRする仕組みとして、令和7年3月から開始した。具体的には、実証的に市内の飲食店10店舗の紹介を掲載したチラシを「くるんと」内に設置するとともに、「くるんと」公式LINEからも店舗情報とクーポンを取得できるようにした。アナログとデジタルを融合させた取り組みで、多くの「くるんと」利用者や公式LINE登録者に飲食店のPRをすることで、新規顧客獲得に繋がった店舗もあり、参加店舗からも非常に好評であった。今後も本取組については、効果的に機能するように内容は検討しつつ、継続して実施することで中心市街地の回遊性の向上に寄与するとともに、目標達成が見込まれる。

タスビル整備事業においては令和6年6月に客室内装、設備の高機能化等の整備が終了し、観光客やビジネス客を受け入れているところである。今後は滞在と交流の拠点として、観光シーズンに依らず経常的に市内外から利用される施設となるべく、地域住民の施設利用も促進し、機能強化及び向上を図っていく必要がある。

今後は、官民連携したイベントの実施や空き店舗の活用など恒常的なにぎわいの創出に向けた取組を継続して実施し、各事業の効果が最大限発揮されるよう取組を推進するとともに、訪れた人に対してタス等の市内宿泊施設利用を促し、よりまちなかに滞在・回遊してもらえよう仕組みを検討し、中心市街地の活性化を図っていく。

**【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】**

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
人口	3,817	3,626	3,533	3,412	3,360	
人口増減数	△64	△191	△93	△121	△52	
自然増減数	△20	△28	△33	△49	△38	
社会増減数	△44	△163	△60	△72	△14	
転入者数	217	120	110	132	143	

**(2) 地価**

(単位：円/㎡)

(中心市街地 区域)	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
東町10-14	19,200	19,000	18,900	18,800	18,700	

**2. 令和6年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

遊びと学びの交流施設「くるんと」がオープンし施設の賑わいに繋がった結果、認定基本計画の目標である「都市機能の充実」において「各施設利用者数」の目標が達成された。また「まちなかの回遊機能の向上」においては「歩行者・自転車等通行量」が基準値に及ばなかったものの、昨年より増加している。同様に「賑わいの創出」においても「空き地・空き店舗解消数」が前年度より高い数値となった。各目標の見通しとしては、徐々に経済活動が活発になっていることに加え、今後予定されている事業の実施により目標達成が見込まれることから、概ね順調と評価する。

取り組みの課題として、公共複合施設の利用者をまちなかに促す方策が重要であるが、駅方面から見た風景は、街中に誘う興味を刺激する構造物等が極めて乏しいことから歩いてみたくなる景観づくりや街づくりなど、駅前エリアからの目線によって誘導できる舞台装置が必要である。

特に長井駅南側に立地し、来館者数を確保できている「くるんと」からの回遊性を今以上に高めるため、施設利用者への市内店舗の認知度向上に向けた取り組みや気軽に利用しやすい店づくり、景観づくりについて官民一体となって検討を進める必要がある。また中小機構等が実施している支援策を活用しながら、街中の人材育成を進めているところであるため、本事業における結果を踏まえた今後の取り組みについて検討し、併せて従前より継続して来館者のヒアリング調査や交通機関の乗降データ等の検証を行い、当該結果を基ににぎわい創出に向けた工夫を講じることで、認定基本計画に掲げる諸事業の後押しとなることを期待するものである。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
都市機能の充実	各施設利用者数(人/年)	128,756人 (R1)	201,700人 (R7)	324,359人 (R6)	A	A	A
まちなかの回遊機能の向上	歩行者・自転車等通行量(平日・休日の合計)	2,125人 (R1)	2,300人 (R7)	2,098人 (R6)	C	A	A
賑わいの創出	空き地・空き店舗解消数(件)	— (R1)	25件 (R7)	16件 (R3~R6)	C	A	A

<基準値からの改善状況(※1)>

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類(※2)>

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「<基準値からの改善状況(※1)>」、<目標達成に関する見通しの分類(※2)>ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。(例：a、b、c)

### 2. 目標達成見通しの理由

「各施設利用者数」については、「くるんと」以外の施設については、水陸両用バスの運行中止による市内観光客の減少や前年度に開催した旧長井小学校第一校舎を活用した NHK 文化祭における約1万人の来館による一時的な利用増加の影響により当年度は通常水準に戻り利用者が減少した。しかし「くるんと」の利用については安定して積みあがっている。併せて市内のまち歩きを中心とした旅行商品の営業活動を通じて集客を強化し、次年度の目標達成を見込んでいる。

「歩行者・自転車等通行量」については、上記に記載した要因による減少やコロナ禍後の団体旅行客の減少、人口減少等の影響により基準値に及ばなかったが、各事業の実施により昨年からは継続して増加している。

通行量の増加に向けて、令和7年3月から「くるんと子育て応援クーポン」を作成し、運用を開始している。本取り組みは、「くるんと」利用者のデータやアンケートを元に、主に利用者の7割を占める市外からの来訪者に市内の飲食店情報をPRする仕組みとして開始したものである。具体的には、実証的に市内の飲食店10店舗の紹介を掲載したチラシを「くるんと」内に設置するとともに、「くるんと」公式LINEからも店舗情報とクーポンを取得できるようにした。アナログとデジタルを融合させた取り組みで、多くの「くるんと」利用者や公式LINE登録者に飲食店のPRをすることで、新規顧客獲得に繋がった店舗もあり、参加店舗からも非常に好評であった。今後も本取組については、効果的に機能するように内容は検討しつつ、継続して実施することで中心市街地の回遊性の向上に寄与すると

ともに、目標達成が見込まれる。

「空き地・空き店舗解消数」については、令和6年度に6件（令和3年度からの合計で19件）の空き地・空き店舗解消を見込んでいたところ、結果として6件の解消となった。中でもクロスバには新たに2店舗創業しており出店が増えている状況である。徐々に経済活動が活発になっていることに加え、起業・創業支援事業の効果もあり新規出店や土地の活用が促され目標達成が見込まれる。また、「にぎわい創出事業」の中で、創業を検討している方等が将来的にまちなかで活動するための実証の場として市内の空き店舗を貸出す「チャレンジショップ」の取組等を令和5年度から実施しているところである。今後も本事業を継続して実施することで、創業希望者の市内における創業意欲を後押ししていく。

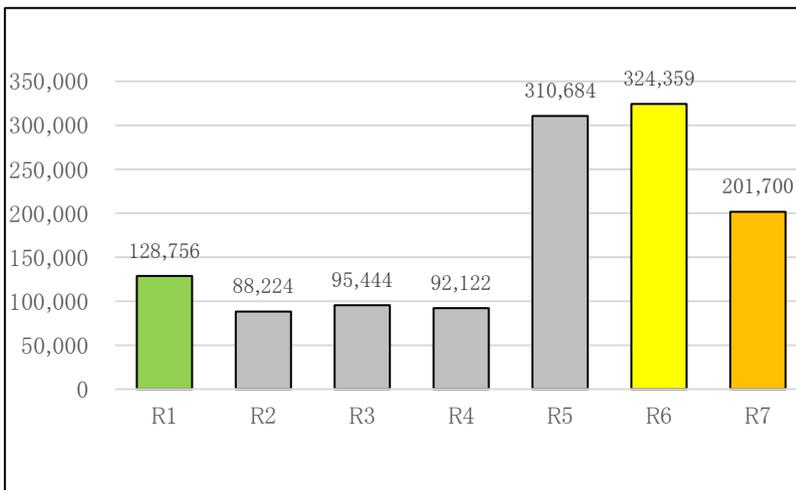
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない

### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「目標指標名」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 63～P. 66 参照

#### ●調査結果と分析



年	(人)
R1	128,756 (基準年値)
R2	88,224
R3	95,444
R4	92,122
R5	310,684
R6	324,359
R7	201,700 (目標値)

※調査方法：図書館、子育て支援施設、文教の杜、旧長井小学校第一校舎、けん玉広場スパイクの利用者数を集計

※調査月：令和6年4月～令和7年3月

※調査主体：長井市

※調査対象：各施設利用者



(単位：人)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
図書館	18,914	23,520	21,548	113,176	117,339	
子育て支援施設	2,125	2,450	2,203	111,662	136,215	
文教の杜	3,526	5,049	5,475	6,880	6,226	
旧長井小学校第一校舎	62,152	62,595	60,027	75,247	60,914	
けん玉広場スパイク	1,507	1,830	2,869	3,719	3,665	
合計	88,224	95,444	92,122	310,684	324,359	

### 〈分析内容〉

各施設利用者数の増加に向けた主要事業については、概ね予定どおりに完了した。

図書館及び子育て支援施設以外の施設利用者数は、水陸両用バスの運行中止による市内観光客の減少や前年度に開催した旧長井小学校第一校舎を活用したNHK文化祭における約1万人の来館による一時的な利用増加の影響により当年度は通常水準に戻り利用者が減少した。しかし、後述する公共複合施設整備事業の完了により、合計の利用者数については目標値を大きく上回る結果となった。図書館及び子育て支援施設は令和5年にオープンして以降安定的に集客ができており、まちの賑わい創出に大きく寄与している。それ以外の施設については、継続して行政やアルカディア観光局、民間事業者等の事業者間で相乗効果を生み出す取組に繋がるよう事業を進め、さらなる観光客数の増加を目指していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

①. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業(都市再生整備計画(長井駅前地区))(国土交通省)(令和2年度～令和5年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：(図書館機能分) 26, 207人 (子育て支援機能分) 44, 483人 最新値：(図書館機能分) 117, 339人 (子育て支援機能分) 136, 215人 令和5年8月にプレオープン、9月にグランドオープンし、市内の方はもちろん県内外の方からご利用いただいている。施設全体の来館者数(R5.8.11～R7.3.31)は約55万人となった。
事業の今後について	当施設の利用者がまちなかに回遊するよう、市内事業者とも連携し、継続的な賑わいの創出に向けたソフト面での取組を実施していく。

②. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【済】
事業概要	令和2年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：1, 040人増加 令和3年3月竣工、5月6日開庁。本事業目標値の設定にあたっては、フラワー長井線の乗降者増加見込みにより算出している。1日あたりの長井駅乗車人員は令和6年度(2月末時点)は204人と令和5年度の214人から減少している。減少要因としては、冬期間に大雪の影響に見舞われ運休が続いたこと、除雪車が故障し全体的な運行日数が減少したことが挙げられる。こうした状況もあり、新型コロナウイルス感染症の流行前の令和元年度(246人)までは回復していない状況である。
事業の今後について	市庁舎市民交流スペースを活用した取組を実施することで、来庁者を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとしての役割を担っていく。

③. 観光ボランティアガイド事業（長井市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	ながい黒獅子の里案内人による観光ボランティアガイドを行うもので、市内のイベント期間のみならず、観光でまちを訪れた方にまち歩きをしながら長井の魅力を伝えるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：850人増加 令和6年度のまちなか歩きの案内実績は733人と令和元年度実績の2,306人を下回る結果であった。新型コロナウイルス感染症の影響により、バスによる団体旅行が減っており、回復していない。また昨年度はながい百秋湖の水不足の影響を受け、水陸両用バス等のアクティビティが中止となったため、市で実施している観光事業や観光施設の利用が減少した。
事業の今後について	個人旅行でのまち歩き観光は復調を見せている。気候状況に影響を受けないような市内の観光施設や観光体験にも魅力を感じていただき、まちなかの回遊性が生まれるよう事業を継続・拡大し実施していく。

④. 地域連携DMO事業（長井市、やまがたアルカディア観光局）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町の2市3町の地域の観光地域づくりを推進するため、滞在交流型観光等を企画・運営し、広く地域の魅力を発信するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和5年度） 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和3年度）〕
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：436人増加 令和6年度の中心市街地に立ち寄る滞在交流型旅行商品の参加人数は364人（催行数29回）と、昨年度の実績481人（催行数44回）を下回る結果となった。当該事項については、長井市の観光商品の目玉である水陸両用バス等のアクティビティの利用客が市内滞在型旅行商品にも参加することが多い傾向にある中で、当該アクティビティが中止となったことが減少要因として挙げられる。一方で、滞在交流型商品の他にも修学旅行を含む手配旅行の実績83人（催行数4回）と、長井を訪れている旅行実績も積みあがっており、今後、地域内への旅行者の増加が期待される。くるとや重要文化的景観の街並みを生かした旅行商品等の造成等により旅行者増加を図る。

事業の今後について

回復をみせているインバウンド需要、国内観光にむけて情報発信の強化を図る。また、SDGs 教育旅行プログラムにおける、まち歩きやけん玉を通したプログラムを実施するなど、まちなかの滞在時間を延ばし、域内経済活性化に寄与する事業を展開していく。

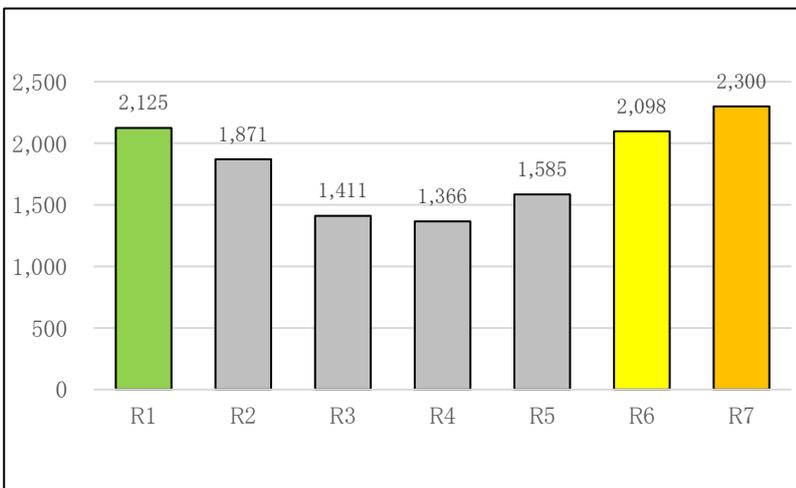
### ●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業のうち、ハード事業は予定どおりに完了しており、次年度以降も引き続き目標達成が見込まれる。

今後は、インバウンド需要や国内観光に向けての情報発信、公共複合施設をはじめとした各施設を活用したソフト事業を継続して実施することで、施設の利用者数を増やすとともに、生まれた賑わいを中心市街地全体に波及させる仕組みづくりを進めていきたい。

(2)「歩行者・自転車等通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 67～P. 69 参照

### ●調査結果と分析



年	(人)
R1	2,125 (基準年値)
R2	1,871
R3	1,411
R4	1,366
R5	1,585
R6	2,098
R7	2,300 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車等通行者、毎年9～11月の平日、休日各1日ずつ、9時～19時まで計測

※調査月：令和6年10月

※調査主体：長井市

※調査対象：中心市街地内の4地点（スパイク前、市民駐車場前、桑島記念館南側（旧東北労金前）、クロスバ前）における歩行者及び自転車等の通行量



(単位：人)

		令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
スパイク前	平日	162	91	178	205	188	
	休日	145	209	97	163	505	
市民駐車場前	平日	647	306	357	406	418	
	休日	186	284	182	174	276	
桑島記念館南側 (旧東北労金前)	平日	59	32	89	93	87	
	休日	56	83	34	60	110	
クロスバ前	平日	365	120	258	275	248	
	休日	251	286	171	209	266	
合計		1,871	1,411	1,366	1,585	2,098	

### 〈分析内容〉

歩行者・自転車等通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおりに完了した。

平日の通行量については、市民駐車場前以外の地点で昨年度に比べ減少している。こちらは、水陸両用バスの運行中止による市内観光客の減少や、コロナ禍後の団体旅行客の減少、人口減少等の影響によるものと考えられる。

休日については前年比で顕著に増加しているが、こちらについては市内イベントの開催増加により観測日をイベント開催日と重ねざるを得なかったため生じた結果と考えられる。しかし本結果については一時的な増加ではなく、市庁舎・長井駅移転事業や公共複合施設整備事業等の成果もあり、にぎわい創出のためのイベントが定期的実施されるようになったことによる増加であると捉えられる。

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 都市計画道路桐町成田線街路整備事業（山形県）

事業実施期間	平成23年度～令和5年度【済】
事業概要	都市計画道路桐町成田線における道路拡幅、歩道整備及び無電中化を行い、歩きたくなる歩行空間を形成するもの。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（道路事業（街路））（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：クロスバ前 82人増加（基準値：565人） 令和5年度末に事業完了。 クロスバ前の実績は514人であり、令和元年度実績の565人から減少した。こちらはコロナ禍後の団体旅行客の減少、人口減少等の影響を受けていることが要因と考えられる。 が、昨年度に比して30人増加した。
事業の今後について	整備した街路をイベントで活用するなど、ソフト面での取組を検討していく。

### ②. 観光ボランティアガイド事業（長井市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	ながい黒獅子の里案内人による観光ボランティアガイドを行うもので、市内のイベント期間のみならず、観光でまちを訪れた方にまち歩きをしながら長井の魅力を伝えるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で5人増加 令和6年度のまちなか歩きの案内実績は733人であり、令和元年度実績の2,306人を下回る結果であった。新型コロナウイルス感染症の影響により、バスによる団体旅行が減ったことが原因である。
事業の今後について	個人旅行でのまち歩き観光は復調を見せている。まちなかの滞在時間が延び、回遊性が生まれるよう事業を継続・拡大し実施していく。

### ③. 地域連携DMO事業（長井市、やまがたアルカディア観光局）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町の2市3町の地域の観光地域づくりを推進するため、滞在交流型観光等を企画・運営し、広く地域の魅力を発信するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和5年度） 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和3年度）〕

事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で2.4人増加 令和6年度の中心市街地に立ち寄る滞在交流型旅行商品の参加人数は364人（催行数29回）と、昨年度の実績481人（催行数44回）を下回る結果となった。当該事項については、長井市の観光商品の目玉である水陸両用バス等のアクティビティの利用客が市内滞在型旅行商品にも参加することが多い傾向にある中で、当該アクティビティが中止となったことが要因として挙げられる。一方で、滞在交流型商品の他にも修学旅行を含む手配旅行の実績83人（催行数4回）と、長井を訪れている旅行実績も積みあがっており、今後、地域内への旅行者の増加が期待される。「くるんと」や重要文化的景観の街並みを生かした旅行商品等の造成等により旅行者増加を図る。
事業の今後について	回復をみせているインバウンド需要、国内観光にむけて情報発信の強化を図る。また、SDGs教育旅行プログラムにおける、まち歩きやけん玉を通したプログラムを実施するなど、まちなかの滞在時間を延ばし、域内経済活性化に寄与する事業を展開していく。

④. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（都市再生整備計画（長井駅前地区））（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で50人増加 令和5年8月のプレオープン、9月のグランドオープンし、市内の方はもちろん県内外の方からもご利用いただいている。施設全体の来館者数（R5.8.11～R7.3.31）は約55万人となった。
事業の今後について	当施設の利用者がまちなかに回遊するように、市内事業者とも連携し、継続的な賑わいの創出に向けたソフト面での取組を実施していく。

⑤. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【済】
事業概要	令和2年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で130.2人増加 令和3年3月竣工、5月6日開庁。令和5年度のまちなか交流施設（建物南側の市民交流ホールや市民防災研修室、売店部分）の年間

	の利用者は約12万人（1日あたり348人）であった。分散していた役所機能を集約したことに加え、まちなか交流施設の利用により、来庁者が増加したものと推察される。
事業の今後について	市庁舎市民交流スペースを活用した取組を実施することで、来庁者を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとしての役割を担っていく。

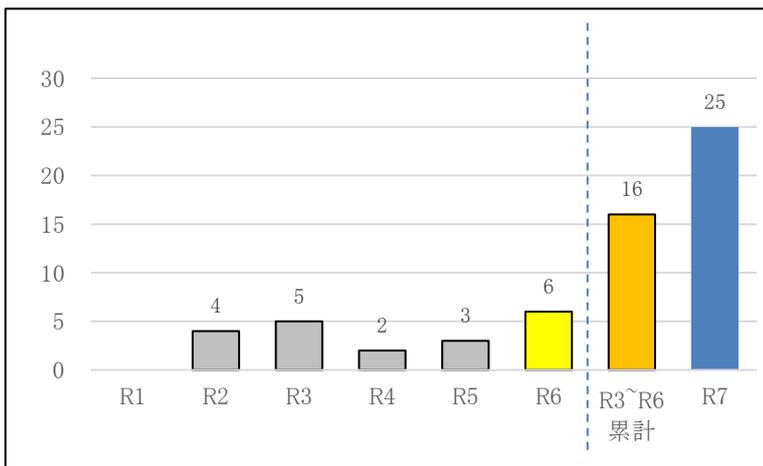
●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者・自転車等通行量については、主要事業は概ね順調に進捗しているが、長井市の観光商品の目玉である水陸両用バス等のアクティビティの中止の影響を受け、観光施設や観光事業の利用が減少したということもあり事業の効果は十分に発現していない。

今後は、気候状況の影響を受ける中でも事業効果を高めていくため、文教の杜等の市内観光施設を巡るツアーや清流にのみ生息するといわれる梅花藻を観賞できるツアー等、長井市内の土地や文化、環境を活かした観光商品の充実化と効果的な広報戦略を進めていくとともに、各事業内容について工夫、見直しを行い連携しながら実績を伸ばしていきたい。

(3)「空き地・空き店舗解消数」※目標設定の考え方認定基本計画 P.70～P.73参照

●調査結果と分析



年	(件)
R1	— (基準年値)
R2	4
R3	5
R4	2
R5	3
R6	6
R7	25 (目標値)

※調査方法：市内5商店街における空き地・空き店舗の数を毎年9～11月のある1日を基準日と設定して計測する。

※調査月：令和6年11月

※調査主体：長井市

※調査対象：市内5商店街



	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
本町商店街	2	2	1	1	3	
あらまち商店街	1	1	0	0	1	
駅前商店街	0	1	0	1	1	
大町商店街	1	0	0	1	0	
高野町商店街	0	1	1	0	1	
合計	4	5	2	3	6	

(単位：件)

### 〈分析内容〉

令和6年度は、空き店舗を活用し開業したケースが3件、空き店舗・空き地が駐車場に整備されたケースが3件であった。中心市街地活性化区域外も含め、創業の相談件数が徐々に増えており、空き店舗等の利用が期待できる。今後は遊びと学びの交流施設「くるんと」や各ソフト事業の効果により、新規出店や創業が促されると推察する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 起業・創業支援事業（長井市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	空き地や空き店舗を活用して起業を希望する個人又は法人等に対して、賃借料の一部や広告宣伝費等について支援する事業
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：15件 最新値：5件（本事業活用件数のうち中心市街地区域内で空き店舗を活用した創業件数） 本事業の令和6年度の活用件数は6件であった。うち1件は中心市街地区域内で空き店舗を活用した創業であった。
事業の今後について	今後も事業を継続して実施し、空き店舗等を活用した起業支援を行っていく。

②. 都市計画道路桐町成田線街路整備事業（山形県）

事業実施期間	平成23年度～令和5年度【済】
事業概要	都市計画道路桐町成田線における道路拡幅、歩道整備及び無電中化を行い、歩きたくなる歩行空間を形成するもの。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（道路事業（街路））（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：3件 令和5年度末で事業は完了した。
事業の今後について	整備した街路をイベントで活用するなど、ソフト面での取組を検討していく。

③. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（都市再生整備計画（長井駅前地区））（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：2件 令和5年8月のプレオープン、9月のグランドオープンし、市内の方はもちろん県内外の方からもご利用いただいている。施設全体の来館者数（R5.8.11～R7.3.31）は約55万人となった。
事業の今後について	当施設の利用者をまちなかに滞留させ、中心市街地での出店を促していく。

④. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和3年度【済】
事業概要	令和2年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：5件 令和3年3月竣工、5月6日開庁。役所機能を集約したことに加え、駅と一体化したことにより利便性が向上した。また、市役所前を会場とするイベントの実施により賑わいの創出に繋がっている。
事業の今後について	市庁舎交流スペースを活用した取組を実施することで、来庁者を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとしての役割を担っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているが、各事業の効果は十分に発現できておらず、「くるんと」からまちなかへの回遊を促すことができていないため、中心市街地での出店を促せるような環境がまだ整備しきれていない状況である。今後も継続して「くるんと」利用者を呼び込む取組をするとともに、官民連携して地域の魅力を広く発信し、継続的な賑わいの創出を図り、まちなかの魅力を高め、中心市街地への投資や創業意欲の向上を促していきたい。